

活動報告書

今月の主な活動

4月は養蚕自体の動きも少ないので、今後の方向性と観光地の改善になりそうな文献を調べていました。文献によればバスで観光地入りする団体はペットボトルを捨てトイレを使うだけで現地でお金を使わないので、本当に興味ある層だけ来てくれた方が客単価が上がる。とあり、そうかそうか、と思うものの実際の声を聞いてみると団体は確かにその傾向があるが、誰かが買うとなると連鎖的にお買い物モードに入る傾向もある。という話もあり、まさにこれは人と同じ状態を好む日本人の傾向だなという特性が見えてきます。これがイギリスになると団体で飲食店に入ってきて同じコースにするという考えより、自分が食べたいものだけ注文する傾向が強くなりそれを特段おかしいとは思わないのです。観光地になっている世界遺産・富士山などに関しても入場料が安すぎて赤字になっていて管理が行き届かないともありました。値上げ一つが難しい状態を打破する世界遺産の観光地となるために出来る事は何か、製品を作るだけではなく訪問者を楽しませる仕掛けづくりが出来たらいいなと考えるようになりました。

そして4月20日は今年の豊蚕を願う儀式が貫前神社で行われ、一緒に参加させていただきました。今年88歳を迎えるベテラン養蚕農家の石井さんがいつもの作業着ではなくスーツ姿でまだまだやる気に満ちている凛々しい表情を見ると年金を待ってるだけの若いシニア達に見習ってほしい気持ちになります。10人もいない富岡市の養蚕農家さん達ですが今年も頑張ってる良い繭を作って輝いて欲しいと思います。



久しぶりに高崎市街をウロウロしてみたのですが、群馬の都会なだけあって、コンクリートと高い建物ばかりで富岡のような自然あふれる景色はどこにもなく田舎憧れへの差別化はできるように感じます。

今後の予定

毎月、製品開発会議に参加させていただき、生糸製造の過程で出る廃棄してしまう勿体ないシルク素材がいくつもあるのが分かりました。

半端な織布だったり、綿だったり一級品のシルク製品を作るには使えない素材でもアートであれば活用できる。そんなことも考え、プランはあっちこちに拡散しがちですが、一過性のイベントで終わらない歴史あるいい街・富岡市をアピールできるような形に落とし込みたいと思っております。

